

札幌 市民防災

第15号

平成28年10月31日
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畑 隆二

平成28年度

札幌市民防災団体連合会定期総会の開催

平成28年5月27日（金）午後5時から（札幌すみれホテルに於いて）、会員52団体から49団体（委任状を含む）の代議員が出席し、また、ご来賓として札幌市から危機管理対策室小田原史佳部長をはじめ多くの関係者のご臨席を戴き、平成28年度定期総会が開催されました。

田畑会長から、本会も創立以来10年の節目を迎えました。顧みますと東日本、熊本と大災害が発生し、日頃の防災対策の重要性を改めて考えさせられましたとの挨拶があり、引き続き、小田原部長から、災害に関する公助は限られており、自助・共助における貴会の平素の地域防災活動に対するお力添えに感謝しているとのことのお祝辞を戴きました。

続いて議事に入り、議長に北郷地区の工藤氏が選出され、平成27年度の事業報告、会計報告、会計監査報告に続き、本年度の事業計画（案）、収支予算（案）、役員改選（案）が、質疑の結果承認され、最後に会則改正案について協議がなされましたが、審議未了のまま再検討することとしました。

総会終了後、同ホテルの2階に移動して、例年行われている総会出席者による「情報交換交流会」を開き、各自が所属している町内会の活動状況等を、自己紹介を兼ねて発表し情報の交換・共有と親睦を図りました。



田畑会長挨拶



総会の様子



真剣に会員相互情報交換



活動報告自己紹介

「災害に強い都市をめざしたまちづくり」を目指して

札幌市危機管理対策室部長 小田原史佳

本日の総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、本年4月14日から相次いで発生した熊本地震では、尊い多くの命が失われるとともに、建物の倒壊など、甚大な被害を受けたところであり、謹んで哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

この度の地震では、本市を含め全国の各都市や関係団体、さらには多くの方々の支援により、避難所運営や物資の提供などが行われるとともに、今後の復興に向けた取組が進められているところでもあります。

しかし、発災から1ヶ月半が経過しようとしている今なお、被災地では余震による不安を抱えながら、多くの方々が避難所などでの生活を余儀なくされている状況にあり、1日も早く落ち着いた生活に戻れることを心から願うところでございます。

さて、札幌市ではこのような災害に対応するため、「災害に強い都市をめざしたまちづくり」を目指す取組を行っているところでありますが、今回の「熊本地震」をはじめ、一昨年9月に本市で発生した「豪雨」のように、災害事象はいつどこで発生するかは分かりません。

過去の災害の教訓からは、被害を最小限にし、命の安全・安心を確保するためには、行政による防災対策はもとより、「自助・公助」の精神のもとで行われる、市民一人ひとりの行動と地域に根差した防災活動が必要不可欠となります。

このことから、日頃から、地域の中心的役割を担っている皆様のご尽力されている防災の取組は、非常に重要であり、改めまして、そのご労苦に感謝申し上げますとともに、一層の推進をお願いする次第であります。

結びになりますが、札幌市民防災団体連合会の更なるご発展と、ご出席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

熊本地震の「り災証明書発行業務」に従事して

豊平区市民部地域振興課地域活動担当係長 馬場 通江

「あんたたちはどうせ他人事やけん・・・」

熊本に甚大な被害をもたらした、2度の大地震、私は札幌市職員として、5月24日から31日までの8日間、熊本市東区役所で「り災証明書の発行業務」に従事しました。

地震発生直後から5月末までで、約8万件のり災証明書の申請があった熊本市。

家屋の調査も追いつかず、申請から証明書発行までに1か月以上もの時間がかかっており、待ちわびた方々が連日、朝早くから区役所前に並び、多い日では500名を超える方々が来庁されました。

連日報道されるニュースを見ていた私が考えていた以上に、当たり前前に普通に暮らしていた家がある日突然壊れてしまうという事に、熊本の方々は大きな悲しみと絶望を感じていました。

調査結果に納得がいけないと大きな声を出す方、壊れてしまった家の思い出をポツポツと話す方、気持ちの整理がつかないとただただ泣いている方、そんな中、調査結果や今後の手続きについて説明をしていた私に、あるご家族の方が言われたのが冒頭の言葉です。

次から次へ来庁される方々に対応するのに精一杯で、ただ一方的に話す私は、そのご家族にはとても冷たく感じられたのだと思います。もっと被災された方の気持ちに寄り添った対応ができなか



り災したアパート

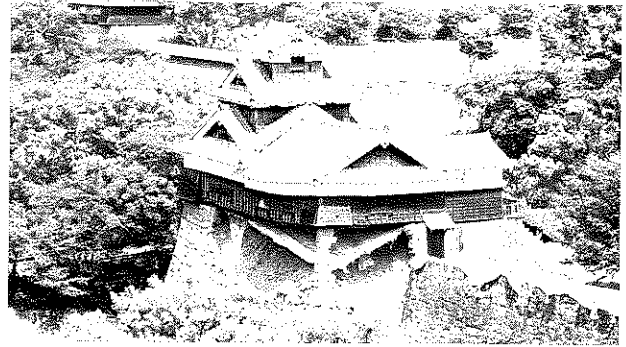


熊本城近くにある熊本大神宮

ったのかと今でも悔やまれます。

一職員のたった8日間の支援では熊本のお役に立てたとは到底思えません。帰りの飛行機の窓から見える、延々と続くブルーシートの屋根をみながら、この災害を忘れないでいることくらいしか自分のできることはないんだなど強く感じました。

※札幌市からの派遣は8月末まで続き、計327人の職員が熊本での支援業務にあたりました。被災地の一日も早い復興を心よりお祈りしています。



熊本城飯田丸五階櫓

平成28年度 札幌市総合防災訓練 南区にて開催

今年度の札幌市総合防災訓練は、9月1日に南区真駒内の自衛隊真駒内駐屯地で実施されました。今回の訓練は、石狩中部に震度7の直下型地震が発生するとともに、長雨の影響で土砂災害等の被害が発生したとの想定で行われました。

南区では真駒内地区が中心となり、避難所開設運用訓練や、発災対応市民体験訓練など、地域住民と行政が協力した訓練を行ったほか、関係機関が連携した、土砂災害救出救護訓練やトリアージポスト（治療の優先度を決定して選別を行う場所）設置運用訓練などを体験しました。

訓練後に秋元札幌市長から、次のような講評をいただきました。

「北海道に大きな被害を及ぼした台風10号の災害対応に当たっている関係の皆様のご努力に心から労いを申し上げるとともに、この災害で被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

今年の4月に熊本で大きな地震があり、北海道でも大きな地震があり、先日来の台風、大雨による洪水、道路、橋梁等の損壊など、本当にいつ起きるか分からないという状況の中で、常日頃から、こういったことが起きてもしつこいという時に対応できるということを想定しながら準備をしておくということが大変重要だと思います。

行政機関も災害があった場合の迅速な対応・連携を強めていく一方で、地域の皆様の自助・共助ということについても、しっかりとお願いをして、皆様と連携を取って災害に対応していかなければならないと思います。」



秋元市長から、訓練を終えての講評



中学生が土のう積み訓練を体験



避難所での給水訓練を体験



中学生が車椅子の悪路走行訓練を体験

避難場所標識が更新されます

札幌市では、小中学校などの避難場所に避難場所標識を設置しています。

この度、避難場所の名称が、「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の分類が設けられたことに伴い、現行の避難場所標識のデザインを更新することとなりました。

このデザインの決定に当たって、災害時に市民に安全に避難してもらうために分かりやすい標識とするため、札幌市で「避難場所標識に関する意見を聴く会」が開催され、私たちもこの会に参加しました。

この会では、小中学校などの指定緊急避難場所には、災害種別（洪水、土砂、地震、大規模な火事）をピクトグラム（全国的に統一された図記号）により表記することになったことから、避難場所がその災害に適しているかを分かりやすく表示することが必要であるとか、より見やすくするための文字やピクトグラムの配置の仕方などについての意見が出されました。

今回の意見を基に、札幌市では、今年度中に新しいデザインの標識を随時更新していくとのことでした。



新しい避難場所標識のデザイン



意見を聴く会の様子

札幌市民防災団体連合会 「創立 10 周年記念 防災講演会」 開催についてのお知らせ

記

日時 平成28年11月12日（土）午前10時～11時30分

場所 札幌市民ホール 2階会議室

中央区大通り西1丁目 電話011-252-3700

講師 細川 雅彦氏（防災・危機管理専門官）

講演テーマ 『近年の地震災害について』…熊本大地震に学ぶ

近年多発しております「風水害」についても合わせて講演を頂きます。

以上

※普段なかなかお聞き出来ないお話ですので各町内会の皆様おさそいの上ご出席お待ちしております。

編 集 後 記

今年は例年にない全国各地で地震、風水害が発生し、大変多くの方々が建物の倒壊などでたくさんの方々が犠牲になられております。是非多くの町内会の市民防災連合会加入をお待ちしております。又皆様の情報ご寄稿もお寄せ下さい。

広報 渡辺 恵美子 電話 011-851-9583番

印刷所 北晃社 斎加印刷所
札幌市西区八軒1条東5丁目
電話 011 (631) 1271